

第1回愛媛県新総合計画策定会議 議事概要

日時：R4.12.22 13:30～15:30

場所：県庁ドーム会議室

1 委員長の選任・副委員長の指名

- 委員長：東瀨 則之委員（松山大学経営学部教授；委員の互選による。）
- 副委員長：桐木 陽子委員（松山東雲短期大学教授；委員長の指名による。）

2 議事

(1) 愛媛県新総合計画（仮称）の全体像について（目指すべき将来像・方向性含む。）

《県の推進姿勢について》

「協働」・「改革」・「創造」に対し…

- 事務局案で良いのではないか。
- 新しい造語を出しても良いのではないか。
- 人口減少問題は全国共通の課題であり、他県との「協働」も打ち出してほしい。

《基本理念》

“次世代により良い愛媛を引き継ぐために”との副題に対し…

- 「より良い愛媛」という表現が抽象的過ぎて理解できない。
- もう少し若者が主役だというメッセージが必要ではないか。
- 温かみのある分かりやすいメッセージ性があるものにすべき。
- 「引き継ぐ」や「次世代」という言葉ではなく、今の若い人たちに刺さるようにすべき。

《目指すべき将来像》

“誰もが希望するライフプランを実現でき、生涯を通じて心身ともに健康で豊かな人生を送れる持続可能な愛媛県”との記載に対し…

- もう少し前向きな表現にならないか。

(2) 計画策定に係る現状認識

- 女性が男性と同じように活躍することは、出産・子育てなどが障壁となっており、今のままの社会情勢では難しい。
- デジタルは、社会インフラ・基盤と捉えてほしい。
- 労働力人口の流出を食い止めるため、高校卒業までに県内企業を知ることに加え、愛媛の産業の果たしている役割を知ってほしい。
- 人口減少対策のため、都市圏と地方圏が共生でき、ウェルビーイング実現のため愛媛に暮らすことが良いと実証できれば良い。愛媛の暮らし・人生を豊かに、といったストーリーがあると、小中学生・高校生にも分かりやすい。
- 若者の意見が通りやすい仕組みづくり、多様性を尊重して地域づくりに参画で

きるような姿勢が必要。働き盛りの人のケアも入れてほしい。
○災害時に外部からの支援や広域連携など、受援力を高める必要。

(3) アンケート調査結果について

○中高生にアンケートを取っているのは良いが、大学生に対しても、計画案の意見をもらうプロセスを取れないか。
○県内企業を知らないとの回答が多かった若者に、県内企業に興味を持ってもらうため、若い人ももっと社会で活躍できる仕組みが必要。